

施餓鬼に ご参詣

八月十六日午前十時半より、恒例のお施餓鬼を行いました。

紅いサルスベリの花が咲いている日でした。

先祖の供養と仏送りをするとというのが、このお施餓鬼です。

檀家数八十ほどで、当日供養にと御供えを持ってこられた方が四十二人ありました。そのうち、最後のお膳にまで着いていただけの方が、



新家文市、鳥飼兼義、建部茂夫、長谷部尚男、足羽一朗、深井弘二（敬称略・受付順）

二十五人でした。来年は、もう少し大勢の方に残っていただきたいですね。お膳に着いて、和やかにいろいろと話をして下さった方は以下の通りです。

酒井信、西田和仁、渡辺算人、佐山準一、大澤泰治、藤井篤、山田舜士、金澤八重子、西田和仁、西田喜代子、西村昌子、池田仁士、三角忠正、西田八重、園山圭吾、池田靖子、穴戸勝利、佐藤秀幸、高島和利、

本堂へのお参りは？

お盆やお彼岸には、本堂に参り、我が家の位牌壇に供えをされる方がほとんどです。ところが、以前から気になることがあります。

お供えをしたら、ろうそくに火をつけ、線香を供え、手を合わせている方が、どのくらいあるでしょうか。ご自宅ですれど同じように、していただきたいものです。そのため、位牌壇の方にもろうそくと線香を用意させていただいております。ただ、お帰りになるときには、ろうそくだけは火を消していただければよいのです。

質問コーナー

時々質問される方がございますので、いくつか、ここに書いてみたいと思

います。

Q、線香は何本立てるのがよいのでしょうか。

A、四十九日までは、一本が良いでしょう。それ以後は、二本ないしは三本で良いと思います。

Q、焼香の時、何回すればよいのでしょうか。

A、先ほどの線香と同じような迷いだと思えます。「佛・法・僧」の三宝に供養するという意味で三回、「心を静め、身を清める」と考えれば二回、「真心を込めて一心に行う」ならば一回でも良いのです。集まっている人数など状況に合わせて回数を選ぶのが賢い方法だと思います。

今回初めて、半面だけですが、寺からの新聞をつくってみました。寺、仏教にちなむ俳句・川柳や、質問もお寄せ下さい。誤字・間違いも教えて下さい。また次回を楽しみにして下さい。